

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1971100126	
法人名	社会福祉法人 芳寿会	
事業所名	グループホーム回生荘	
所在地	山梨県都留市境36	
自己評価作成日	令和3年1月5日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心」を大切に、入居者一人一人に寄り添い、心を込めたケアをモットーにしています。退所の際に「回生荘に来てよかった」と言ってもらえるようなケアを目指して、なじみの関係を重視し、入所から看取りまで望む生活を実現できるよう心がけています。住居内では庭やテラスに自由に入出りし、畑や野菜の収穫を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

県東部の郡内地域に位置し周辺は住宅や畑等に囲まれた静かな環境にある。鉄筋コンクリート2階建て1階に共用型デイサービスとグループホームが併設され、2階が特別養護老人ホームになっている。法人全体での研修会や避難訓練等、職員間の連携もあり協力関係が築かれている。共用型デイサービスとして1日3名を受け入れ、利用者との交流をしている。理念に掲げている「基本的人権の尊重、個別処遇の実現、自立支援、自己決定の尊重」の実現に向け利用者一人ひとりに合わせた支援に努めている。職員の日頃の対応や事業所たよりで、利用者の様子や事業所での取り組みが解り易いと、家族等からは良い評価を受けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度(コロナ禍以前) 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが(コロナ禍以前) 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者やご家族の皆様、および職員等が見やすい所に大きく手作りの理念を掲示して、いつでも目に入るようにしている。 ミーティングや少し手の空いた時などに理念に基づくサービスの提供について話し合いをしている。	事業所理念を玄関の正面とフロアに掲示して、日頃から職員との共有ができています。「いつも心穏やかに、ニコリ笑顔の我が家です」を事業所の目標にして、ケアプランの会議時に話し合い、具体的な支援に繋がるよう利用者の希望を聞いて、個別支援を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会のサロンなどに出かけている。 回覧板を利用者と一緒に隣の家に届けに行っている。 グループホームの行事やイベントなどに参加していただき一緒に楽しんでいる。 地元の幼稚園児の訪問がある。	自治会に加入し回覧板を回したり、職員と一緒に公民館で開催している「いきいきサロン」の参加や事業所の納涼祭、餅つき等、地域住民と関わる行事がコロナ禍で中止になっている。また、幼稚園児の訪問やボランティア、実習生の受け入れも自粛している。近所の人が野菜を届けてくれるなど、地域との関係は作られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症の相談窓口になっている。 地域サロンに参加して、認知症の理解について話している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の運営状況や行事等について報告し、勉強会や意見交換の場として活用し、得た情報や意見をサービスの場に還元している。	運営推進会議は2か月に1回開催し、民生委員、市担当者、家族会会長、施設長、事業所職員がメンバーになっている。事業所からは取り組んでいる内容について報告し、参加メンバーから意見、要望を受けている。市の担当者からは、行政に関する情報をもらっている。12月はコロナ感染の影響を踏まえ、書面での報告とした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、運営推進会議以外でも随時必要に応じて連携を取り、助言や指導を受けている。	市の担当者は、運営推進会議のメンバーでもあり、事業所の実情や取り組みについて伝えている。グループホームに併設している、共用型デイサービスの相談等で助言をもらい問題解決に繋げている。また、生活支援を受けている利用者もいて、担当職員の訪問もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの施設内研修を行ったりして、スピーチロックも含め取り組んでいる。 玄関はシステム上グループホームのみのオートロック解除ができない。庭から外へのフェンスは施錠しておらず自由に出入り可能。	法人全体の研修が年2回あり職員が出席している。出席していない職員にも会議の資料を渡し共有認識を図っている。事業所内に身体拘束廃止委員会があり勉強会を行っている。行動を制限するような言葉遣いにも気を付けている。玄関は施錠しているが、他の入り口は開放し見守りの中で自由な生活を支えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やミーティングを利用し、虐待に関する認識を深め、虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市町村等で行なう研修に参加したり、市町村の担当者等に必要時相談したりしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等はその都度充分な説明をし、理解、納得を図っている。いつでも質問や相談には対応できるようにしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の連絡先を提示しており、またご意見箱を設置している。家族や利用者の意見を運営推進会議やミーティング等を利用し検討、反映させている。	家族等の面会については、距離を置き、マスクを着用して感染防止策をとったうえで、玄関先または居室での面会を許可している。コロナ禍で、面会も限られている為、意見を聞くことは難しい状況にある。ケアプラン作成時には、家族等の話しやすい環境をつくり聞いている。出された意見、要望は検討し反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との関係性を重視し、意見や提案を出しやすい職場環境づくりをしている。日常的に意見や提案を聞いている。職員会議や管理者会議で検討、反映させている。	日頃から、職員とはコミュニケーションを図るように心がけ、話を聞くようにしている。個人面談は特に設けていないが、個別に話をする機会があり、休暇等要求のあったことに対しては、柔軟に対応して働きやすい環境をつくっている。職員から利用者が車椅子に乗ったまま計れる体重計購入の要望があり、検討し反映した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年評価を行ない、職場環境・条件の整備に努めている。労働時間の調整や業務内容の精査・見直し、適度な有給休暇の取得等、職場環境・条件の整備をしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修情報を提供し、希望に応じて参加させている。法人内部での各委員会からの要望を受け、外部講師を呼んだりして研修を実施している。管理者は介護現場において、各職員にケアの指導や助言をしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際に他施設の職員と交流を深めている。実習の受け入れをしたり、実習に出かけたりして、自施設のサービス向上の取り組みをしている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を基本とし、本人の困りごとや不安を和らげるような対応や声掛けに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して利用者の介護を任せられるよう、顔の見え関係性を作るように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を確認し、入所も含め、色々なサービスを提案している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒になって食事したり家事を行ったりして支え合って生活する関係を築いている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にしかできない事は家族の協力を得ながら、協力して共に本人を支えており、良い関係をつくるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の訴えに応じて外出し、なじみのお店等に出かけている。家族の協力も得て、入居者の外出意欲や、懐かしい思いに対して支援をしている。	友人、知人の面会や同級生の所に行ったり、お墓参りに行くなど馴染みの関係が途切れないよう支援していたが、コロナ禍で困難になっている。ライン電話で家族と話をしたり、利用者全員が年賀状を書いて関係者に出したり、以前、野菜を置いていたJAの直売所を見に行くなど、できる事の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格やBPSDに合わせた関わりをして、入居者同士の関係が良好に保てるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族とも交流があったり、他施設へ入所された方やその家族の相談や支援も行なっている。入居者自身が他施設の入居者へ面会に出かけたりもしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との雑談や言葉から意向の把握に努めている。家族の意向や思いも含めて、本人本位に検討している。	入居時の利用者、家族の生活に対する意向を聞いて把握している。どのように暮らしたいのか、何をしたいかなど、お茶の時間等の会話から聞くことができている。聞いた事は、個人別の介護記録に記入し、ケアプランに活かせるようにしている。意思疎通が困難な利用者は、日々の行動や表情から汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、関係機関と連携を取りながら情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、内容について検討したりして現状を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や職員ミーティング、面会時や日々の会話の中で出た思いや考え、アイデアを反映して介護計画を作成している。	入居前に関わりのあった、ケアマネジャー等から情報を得て暫定の介護計画を作成し1か月で見直しをしている。利用者、家族等からの意見、要望を職員ミーティングやサービス担当者会議で話し合い、介護計画に反映している。モニタリングに基づいて3か月又は6か月で見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に残し、申し送りノート等を活用し、情報の共有に努めている。介護計画の見直し、モニタリングや再アセスメント等にも記録を活かしている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに合わせて対応しており、そもそも既存のサービスという考えを持っていない。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の入居者に合わせて、できる事をしてもらい、出かけ、生き生きとした暮らしができるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に訪問診察の契約を結び、往診してもらっている。それとは別にかかりつけ医への受診に対し同行介助も行っている。	入居前のかかりつけ医又は、訪問診療を希望した利用者は月2回の定期受診をしている。かかりつけ医の受診は、家族同行となっているが不可能な時は職員が代行するようにしている。受診結果は、家族等にも伝え情報を共有している。訪問歯科や医師の紹介状で、専門医の受診対応も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診察医に情報を伝え、受診や往診、必要な看護等の判断をもらい対応している。訪問してくれた看護師にも情報を伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換を行ない、入居者の状態に合わせて医療機関と相談し対応している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた家族や本人の考えを尊重し、できる事できない事の説明をして対応している。医療との連携や家族等の支援等できるだけ希望に沿うように対応している。	入居時に重度化や終末期、事業所での対応について説明している。事業所での対応が困難になった場合を踏まえて、法人の特別養護老人ホームへの契約を促している。身辺の自立が出来なくなり、共同生活を送ることが困難になった場合は、家族等に連絡し話し合いの機会を持ち、随時意志を確認しながら方針を決めている。医療連携行為としない場合は、在宅医、看護師、職員と連携体制を整えて事業所での看取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や外部研修にて職員の実践力向上に努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、屋敷を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で防災避難訓練を定期的に行っている。	年2回、避難誘導訓練を実施している。日中や夜間を想定して、利用者も一緒に避難、救出訓練を行っている。非常放送があり、事業所の玄関に集まり、避難場所になっている正面玄関に移動している。事業所の場合、土砂崩れも想定され、火災とは避難ルートが異なっている。近隣の協力体制として都留市消防署に依頼している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応についての施設内研修を行なっている。一つ一つの声かけや対応を検討したりミーティング等で話し合ったりして改善に取り組んでいる。	事業所の理念として、基本的人権の尊重を掲げている。施設内研修でも理解し、利用者のその人らしい気持ちを大切にして、言葉かけをするように努めている。プライバシーに配慮して、居室の鍵を渡して管理している利用者もいる。呼称も基本は苗字としているが、反応の良い名前や旧姓で対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		日常的に声掛けを行ない希望を聞いたり確認したりしている。日常的に本人の希望や自己決定をもとに介護を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		他利用者との関係が悪くならないよう職員が仲介しながら、自分のペースで自由に生活できるよう支援している。利用者優先となるよう業務も定期的に見直している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		衣類などは本人に確認し気に入ったものを着てもらおうようにしている。家族の協力も得て本人の好みの身だしなみができるようにしている。本人がお店にでかけ、気に入ったものを購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		出来るだけ自力での摂取、自分のペースでの摂取ができるよう支援している。野菜の皮むきや食事の盛り付け等できる事は一緒にこなしている。下膳や食器洗いも一緒にこなしている。	その日のメニューは利用者と相談したり、食材等に応じて職員が作っている。利用者も材料を切る、皮むき、汁に味噌を入れる等出来る事を職員と一緒にこなしている。給食日誌があり、利用者が手伝った内容を記入している。利用者の希望を聞いて、お寿司やお刺身、ホットケーキやお団子を作り、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		好みの飲み物を準備したり、時間に拘らずにちょっとした物を提供したりして一日の摂取量が確保できるようにしている。食事時間も特に朝食は本人の希望の時間に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		声掛けや誘導、介助等入居者の状態に応じて対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		尿意便意の訴えの無い方にも行動等から尿意便意を察知しトイレ誘導してトイレでの排泄を行なっている。	排泄チェック表を使用して利用者個々のパターンを把握し、トイレ誘導して排泄ができるように支援している。夜間はオムツを使用している利用者も日中は使用しないで、身体機能に応じて座位が可能であれば、トイレでの排泄を大切にしている。できる限りオムツを使用しないで、過ごせるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		水分量や食物繊維の確保、運動等なるべく薬に頼らない排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		本人に確認をして入浴を行なっている。湯温の調整や長湯など、満足できるよう努めている。希望があればいつでも入浴できるよう準備し対応している。	一日を通して毎日、入浴準備が出来ている。浴槽は家庭風呂の個浴で、利用者のその日の希望を確認して入浴支援している。重度化しても、職員が二人で介助し入浴できるようにしている。入浴が嫌いな利用者には、声掛けやタイミングで入浴を試みている。週2回は入浴できるようにしている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム回生荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		状況や様子に応じ休息している。衣類や布団の調整、眠る時間等各入居者によってそれぞれ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬の変更時には目的や副作用、用法についても申し送り、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		レクリエーションは個々の入居者の希望に合わせて実施し、参加も自由、その他外出、畑仕事など自由でいきいきとした日々を過ごせる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		希望に沿って、なじみのお店に買い物に行ったり、家族や地域の方の協力を得て自宅に行ったり、散歩に出かけたりできるよう支援している。		コロナ禍ではあるが、感染対策をして近隣へのドライブをして外出支援に努めている。日常的には、敷地内の散歩をしている。また、居室から直接テラスに出て外気に触れられるので、屋内に閉じこもることなく過ごしている。利用者の希望に応じて、近くの衣料品のお店に買い物に行くこともあり、出かけられるように支援している。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		本人の希望に応じてお金を所持したり、買い物をしたりできるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		電話が掛けられない方も職員が代わりにかけて受話器を入居者に渡している。年賀状等手紙のやり取りの支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		清潔に保つよう心掛け、穏やかに過ごせるようにしている。		広いフロアには、ちぎり絵の作品や行事を映した写真が壁に飾ってあり、利用者の思い出となっている。共用空間には、ソファやテレビがあり、更に馴染みの物を取り入れ、利用者が居心地よく家庭的な雰囲気を感じながら過ごせるように配慮している。また、共用サービス利用者の休憩用ベットも置かれ、ゆったりと休める環境にある。コロナ感染症対策にも配慮した対応を行っている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ソファや座敷、テーブル席等思い思いの場所で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		家具や家具の配置等、本人や家族と相談しながら生活しやすいようにしている。		居室には、ベット、床頭台、空気清浄機、トイレ、洗面台が備え付けてある。タンスや写真、思い出の品が持ち込まれ、それぞれが居心地よく生活できるように配置されている。また、障子・ガラス戸を開けると広いテラスになっていて、自由に入出りできるゆったりとした空間になっている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		やりたいことを自由にやるリスク等を家族に十分に説明し、納得してもらい自由に生活してもらえるようにしている。可能な限り安全に配慮し、無理強いはいしないで、できる事はやってもらよう支援している。		